

## 文学作品をテキストとした上級学習者用読解教材の開発と実践

甲南大学 国際言語文化センター 森川 結花<sup>†</sup>

キーワード：文学作品、考える、対話する、内容中心の外国語教育 (Content-based Instruction)、プロフィシエンシー、

現在、「リーディング・チュウ太」の派生プロジェクトとして、**tutor.bunko**(チュウ太ブンコ)の開発が進められている。ここでは **tutor.bunko** (上級編)「日本語上級者のための 日本文学 珠玉の小品集」のコンテンツの一部と、開発のきっかけとなった甲南大学での授業実践を報告する。

日本語上級クラス(“大学3年生レベル”の日本語)と言っても非漢字文化圏学習者が中心のクラスの場合、なかなか適当な教材がないのが現状であるが、甲南大学の日本語上級クラスにおいて、08-09年度中のある期間、文学作品(短編小説)を主教材とした授業を試み、その学習活動の有効性が見出された。その実践では、単に文字情報を読み取る「読解」ではなく、「読む」=「考える」活動へ学習者を誘導する内容中心の外国語教育(Content-based Instruction)が行われた。学習者は作品内容についての「問い」に取り組んで作品と向き合うことから始め、クラスメートとの対話を経て各自の思考を形成し、最終的にレポートや創作といった産出活動に至る。このような input から output への自然な展開が可能となると同時に、本物に触れる喜び、作品を通しての日本文化(異文化)体験、作品を読了できたことによる達成感、そして、日本人と話題を共有できることなど、さまざまなメリットのあることが確認された。

この実践経験をもとに、**tutor.bunko** (上級編)が開発中である。テキストとなる作品は青空文庫から選ばれた短編作品で、各教材のコンテンツは

- 意味表示機能を備えた本文(挿絵つき)
- 朗読音声
- 練習問題二種……1)「選ぶ問題」(基本練習としての二択問題)、  
……2)「考える問題」(内容について考えさせる記述式問題)
- 表現文型リスト、語彙リスト
- メール添削機能
- ブログ機能

である。これら学習コンテンツと各機能を通して、学習者のプロフィシエンシー(熟達度)を養成し、彼らが“本物の”日本語の使い手になれるよう支援していきたい。

<sup>†</sup> 〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1, morikawa@center.konan-u.ac.jp